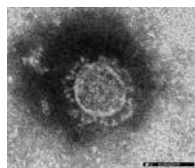


新型コロナウイルス、世界経済に感染か 中国景気悪化加速に揺れる市場



新型コロナウイルス

ジャーナリスト

八雲豊彦

中国・武漢で発生した肺炎死を招く新型コロナウイルスが金融マーケットを直撃した。世界的な緩和による金余りで支えられながら業績相場を待つ世界経済だが、新型ウイルスは決して強靱とはいえない景気の腰を折るリスクをはらんでいる。1級の経済大国になりあがった中国で起きた発展途上国にみられるような

パンデミック。命の問題と同時に経済への感染も警戒しなければならぬ。

金融相場を直撃 SARSを上回る悪影響

日本政府在感染症対策本部の初会合を開いた2019年1月31日の日経平均株価。終値は2万2977円75銭で、前日より401円65銭も下げる大幅安だった。終値が2万3000円を下回ったのは、去年11月以来、3か月ぶり。ウイルス感染による世界経済の先行きへの警戒感が、隣国である日本市場を直撃した格好だった。

株価急落は上海ではもちろん、日本だけではなく香港、台湾からアメリカ、ヨーロッパへ伝搬した。欧米市場も巻き込む「パンデミック恐怖相場」の様相を呈した。今後、日本

にとつては、感染の拡大はリスクオフを呼び込み、安全通貨である円買いになり、株価を下げるスパイラルになることが心配されている。

一方、発生源の中国では、实体经济への影響はまだ、これからだ。今回の感染者は2002〜2003年に香港を中心に8096人が感染し、37ヶ国で774人が死亡した重症急性呼吸器症候群（SARS）と比べ、国内感染者数で既に上回り、全世界の感染者数も突破する勢いとなっている。当時も株価下落をはじめ

2020年1〜3月期の消費の伸びは著しく減速し国内総生産（GDP）成長率は5.2〜5.5%増に低下すると予想。旅行、ホテル、外食、交通輸送など消費関連の受ける打撃が最も大きく1〜2月はマイナス成長に陥る恐れもあるという。感染がいつまで続くかに

め金融市場に影を落としたが、1四半期（3ヶ月）で相場への影響はおさまった。今回の経済的な影響は、さらに深刻になるとみられている。

中国の交通銀行金融研究センターが出したレポートの内容によると、新型コロナウイルスによる肺炎が中国の経済運営に与える悪影響について、SARS時より深刻になるとの見方を示している。

下すると予想。旅行、ホテル、外食、交通輸送など消費関連の受ける打撃が最も大きく1〜2月はマイナス成長に陥る恐れもあるという。感染がいつまで続くかに



中国政府の華春瑩報道局長は日本の支援に心から感謝すると述べた

株価急落は上海ではもちろん、日本だけではなく香港、台湾からアメリカ、ヨーロッパへ伝搬した。欧米市場も巻き込む「パンデミック恐怖相場」の様相を呈した。今後、日本



東京証券取引所

め金融市場に影を落としたが、1四半期（3ヶ月）で相場への影響はおさまった。今回の経済的な影響は、さらに深刻になるとみられている。



中国発のパンデミックが世界に及ぼす影響は遥かに大きくなっている

ち直しは4〜6月期以降になるとみている。

しかし、中国の経済規模はSAR S時と現在では大きく違う。比較できる統計では、中国が世界のGDPに占める割合は2008年に4.3%だったが、2018年にはアメリカに続く15.7%。中国発のパンデミックが世界に及ぼす影響は遥かに大きくなっている。

感染は依然として拡大段階であり、中国経済の減速は間違いなく世界経済全体に悪影響を及ぼす。その規模は不明だが、少なくとも中国がさらに景気減速することは避けられず、それに伴う世界的な需要の伸び

悩みもかなり深刻になりそうだ。

大国の不透明な情報公開 不安増幅におびえる世界

アメリカは2009年6月から好景気が続き、すでに10年半を超えた。これは米国史上で最も長い景気拡大で、逆に言えば、いつ拡大期が終わってもおかしくはない。現在、アメリカの景気が比較的良いため中国景気の減速が世界経済への波及を表面化させていないともいわれている。しかし、中国の景気悪化が一定レベル

ルを超すと、米国も景気後退が明確化。世界経済にひびが入るかも知れない。

さらに直近では米中間係にも影響を及ぼし貿易交渉に対する懸念が、改めて高まる可能性もある。感染拡大で中国の景気が更に減速すると、1月15日に合意した米農産物の大量買い付けも不可能となり、第2段階の交渉が難航するのは避けられない。米国は対中関税



選挙前のドナルド・トランプ大統領が有権者向けに追加関税など対中強硬策を広告する危険も無視できない

の多くを11月の大統領選まで維持する方針だが、中国が約束通りの数値目標を達成できない可能性が出た場合、選挙前のドナルド・トランプ大統領が有権者向けに追加関税など対中強硬策を広告する危険も無視できない。米中関係の悪化は、世界経済の最大の懸念材料で、解決の道は1層、見えなくなっている。

今回の感染拡大で2月6日時点までに中国で確認された患者はおよそ2万人に達し死者も500人を超えた。だが、発生源や感染経路、伝播



中国特有の情報管理体制と闇に包まれた衛生管理が不安を増幅している

などのメカニズムは依然として十分に解明できていない。

実際には、この数倍の患者がいるとも言われている。本当のデータが見えにくい中国特有の情報管理体制と闇に包まれた衛生管理が不安を増幅している面も否めない。米国の神経を逆なでにした超高速通信規格5Gで最先端を走る中国。公衆衛生を蔑ろにした代償を、旧態依然とした情報開示によって世界経済を窮地に陥れる皮肉な事態に巻き込まれるのは理不尽だ。